

日

本

近

信

廿餘年ぶりの
苦熱。三五度六

太陽の乱舞に水鉢柱は躍る、朝からさすぱらしい勢ひだ、平年の平均が三二度二といふとて、乃ハ八月十七日正午には三四度四、午後一時には夏の最高レコードであるた八月七日の三四度五を突破して三五度一、秋立つてすでに十日といふにこの酷熱、八年の三五度二に次ぐもので、午後二時には遂に同廿八度六を示し、屋外に至つてはづれも百數十度、まさに市民は吐息の吳遊廟

吳遊廟では夏枯期に加へて地膽を力フェ式に

となめた



安住の地を尋ねて

(南の旅續篇)

浅見哲之助

(16)

カ、フ
同縣人で當地方一の成功者日氏を訪るべく、氏のモータボートを借りてカフ、川を下つた。危い手つきの土人の獨木舟を尻目ににかけてポン、と大波小波を兩岸に打ちやうがら、アラ氣取りで船に胡坐をかいてゐる。日本人の生活に水辺親しむを増してくれるものはない。

氣分も万皿無い事はない。

川底の小砂利の一つ、を數へることが出来る程水は透んでゐる。日本人の生活に水辺親しむを増してくれるものはない。

二時間も行つてカ、フ村に着いた。此處には五六の日本人家が十数年の歴史と共に住んでゐる。

成功者の日氏は年産ビンガ五六十万リットルだらう。いくら小

さく見積つても三四十コントの収入とは豪華なものだ。でも農

業者日氏は年産ビンガ五六十

万リットルだらう。いくら小

さく見積つても三四十コントの収入とは豪華なものだ。でも農

業者日氏は年産ビンガ五六十

する日本を古靴でも捨てざる程作もなく捨ても悔まない程若者の血沙を踊らせる魅力ある言葉だつた。

舞台上に登てオフエを駆つてバ

ンを喰つて、ピフォキをばおば

金髪の美人の抱擁等々是れ等

本味の失せない新移民といふ事

を最大條件として嫁探しをやる

ではないか。

此の問題の是と非とを論じて

プロミツソン青年會の口禪は余りも生々しい出来事で、古

くは某新聞社も此の問題で筆禪

を被つてゐる。

それを私が又新しく論じて禪を

報紙に負はしても申しわけな

いので避けざしてもらひ。

日本娘にありつけなかつた連中

は洋妻を大抵娶つてゐる。

日本娘の少くない當地方では

新移民だ、舊移民だ、賛賛もい

へず生理的な要求には自己無く

日本娘にありつけなかつた連中

内外雜貨 小間物類

内外食料品、雜貨商
北西線、シス市公函前郵局 拾七番
竹内商店 青木 晴一

内外雜貨 小間物類

内外食料品、雜貨商
太田商店 岡田

内外雜貨 小間物類

旅館 朝日亭 中田菊治

内外雜貨 小間物類

旅館 景山百貨店 吉永宗義

植民俚語正調 花も盛りの珈琲園 高木臥牛
ソロカバナ銀バントン シヤリヤ銀バントン
セラム組合植民地内
会社代理店景山博史

花も盛りの珈琲園 高木臥牛
ソロカバナ銀バントン シヤリヤ銀バントン
セラム組合植民地内
会社代理店景山博史